

(11) 地域整備構想の検討について

想定課題

新都市の整備は、相当長期間にわたり段階的に行われると想定されるが、各段階におけるクラスター整備と都市基盤整備は、自然環境の保全や地域全体としての整合性といった観点からはどのように行うべきか。

対応方向

国会等移転審議会において検討された新都市イメージのパンフレットには、『首都機能移転は広域かつ長期的なプロジェクトであるため、移転の規模や内容の検討を行いながら段階的に整備を進め、また、社会・経済の変動に柔軟に対応できるようにすることが必要です。自然環境への負荷を可能な限り回避するという課題に対応していくためにも、新都市については「段階的クラスター配置」がふさわしいと考えています。』と示されています。

しかしながら、それぞれのクラスターが有機的に連携することにより、初めて効率的な都市運営が図られることから、道路・下水道などの都市基盤整備は、クラスター整備に支障を来さないよう計画的かつ効果的に先行して整備していく必要があります。

このため、国会等を受け入れる側として、地域整備のガイドラインとなる総合的な地域整備構想の検討が必要であると考えます。

クラスター型都市

都市の空間構成を、業務・商業の集積地区である核（コア）と、住宅地等を含めた市街地とに着目して分類したときに、複数の市街地のまとまりが相互に距離を置きつつ一定の圏域の中に分散して配置されているタイプ。クラスターとは果物や花の房を指す。

核がひとまとまりに集中して存在し、周囲を住宅地等が取り巻いて連担した市街地を形成している一核集中型都市や、連担した市街地の中で業務・商業核が複数に分散して配置されている多核分散型都市と区分される。

